
境界線の先

弓弦

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

境界線の先

【Nコード】

N6757X

【作者名】

弓弦

【あらすじ】

魔法と科学が成り立つ世界が多次元世界を発見し未開の地や遺跡の探索や資源を探し求め、またはモンスターの居る次元世界でモンスター討伐する冒険者達の物語。

プロローグ（前書き）

皆様はじめまして！

弓弦です…

正直投稿しようか迷いましたが物は試しと言っことで始めさせて頂きました！

生暖かい目で見守って頂けると幸いです…

プロローグ

その昔、魔法使いが魔法を使う事が出来ない無能力者を支配していた時代

魔法を使う事の出来ない無能力者達は日々魔法使い達の奴隷になっていた。

ただ魔法が使えないだけでこんなにも生活や境遇が違う事に大勢の無能力者達は嘆いていた。

しかし、無能力者達は魔法が使えないだけであり、知恵はあった。一人の天才により万物の現象を解明しそれを広めていった。

そして、魔法使いに対抗する為に物理法則や電気を発見し利用した。そんな彼らは自分達を科学者と名乗っていた。

魔法使いによる支配は科学者達により終焉を迎え、科学者による国が出来た。魔法使いの国の名は魔道王カイン「ハーディア」から名を取った「魔都ハーディア」そして科学者達の国の名は一人の天才科学者デイル「クラース」の名を取った「科学都市クラース」に分けられた。

両国は互いにいがみ合い戦争を繰り返していた。

魔法使いは大規模魔法による広範囲爆撃等で戦火を広げていく。対する科学者達は火薬を使った爆撃や砲弾、銃による遠距離精密射撃で対抗していった。

この争いは長く続き、魔法使い達は様々な新しい魔法形態を完成さ

せては戦場で試していった。

同じく科学者達も科学を様々な形態に発展させ、化学や物理学、光学や機械工学等、多岐に発展させた。

そして、更に長い年月が流れ両国には魔法が使える者や無能力者が増えていき、何代にもわたり王が変わっていき戦争が行われた理由を誰一人として分からなくなっていった。

そんな中、戦争を嘆く第42代目ハーディア王ジューダス^{II}ハーディアと同じく第42代目クラーズ王 アラン^{II}クラーズは王達の子供であるユーファ^{II}ハーディア姫とルイード^{II}クラーズ王子の婚姻を機に国を統一し国の名前を「アインガルド」に改め、互いの技術を交え更なる発展を遂げた。

戦争平定より2000年の歳月が過ぎた。

魔法と科学が融合した通称「魔科学」の発展により今の世界とは異なる次元の世界を発見し侵略や融和を繰り返していった。

次第に世界の中心はアインガルドになりさまざまな次元の世界を支配していった。

現在確認されているのは14世界。

内10世界はアインガルドに管理されていた。そんな多次元世界に行き来し貴重な資源や化け物^{モンスター}を討伐する事を生業にしている者達、通称「冒険者」達がいた。

プロローグ（後書き）

しよっぱなから説明とかどうなんでしょっね…

次回からはちゃんと人物登場します！

…やっと人物書ける…

【次回予告？】

主人公とその仲間が登場！主人公とその仲間はいつたいたいどんな人？

次回、始まりは唐突に！？

お楽しみに〜（笑）

はじまり(前書き)

しよっぱなからリアル事情により投稿時間が長いです…

マターリ書いていきますので生温い目で見守って頂けると幸いです

…

はじまり

「ん〜…これはどうしたものかなあ…」
僕は手元にある壊れた物を見ていた。

「…だから悪かったと言っておるだろう。しつこい奴だな」
と、後ろから声が聞こえた。そちらへ顔を向けると口調とは裏腹に幼い女の子が立っていた。

彼女の名はエルシュ＝シユタイナー幼い女の子に見えるが年齢不詳だ。かなり昔の出来事でさえまるで見てきたかの様に話す不思議な女の子である。しかし、僕は知っていた。今の彼女は仮の姿であることを。

「まあ、良いですけど。これからどうします？」
ここは第3次元世界「ムルド」首都よりかなり離れた辺境の村「サイド村」で偏狭の村に唯一の食堂兼宿屋の一室を何とか確保出来た。

勿論他の部屋は空室だったが懷事情により値引き交渉の結果一泊10Gで泊めてもらったのだった。

あ、僕の名前はレイス＝マクスウェル、駆け出しの冒険者だけと一端の魔導師ウィザードでもある。魔法使いのランクで言えば上から2番目であり自分で言うのも何だけどかなり優秀だ。

そして、目の前にいる彼女は僕の師匠であり、旅のパートナーでもある。エルシュは幼く見えても全世界でも数える程しか居ない魔法使いの最高峰である「超魔導師ハイウィザード」だった。

過去形なのは定期的に魔法協会ハイウィザードで更新と言う名の試験を面倒の一言で行かなかったので今現在は元超魔導師である。

「師匠が座標計を壊してしまつたから駅ターミナルに行かなきゃ別次元に行けなくなつたんですよ？」

僕は少し呆れながらエルシュを軽く睨みつけた。

「訓練の時以外は師匠禁止つて言つたであらうが。それに新しい魔法の構成を思いついたら試すのが魔法の義務であらうが！」

エルシュは小さな胸を張りながら自信満々に言い放つた。

「ですがエルシュ、物の見事に失敗した挙げ句に座標計が壊れましてし、更にはお金がありません。」

僕は財布を取り出すとスツカラカンな財布を振つて見せた。

「流石に金策をしないと宿は愚か飢え死にしますよ……」

「分かつてる。確か、第3次元世界と言えばこの位の時期にモンスターの大討伐を行うだろ。それに便乗して今後の活動資金を入手すればいい」

エルシュは得意げな顔をしていた。

「……誰がモンスターを倒すんですか？」

僕は嫌な予感がしていた。

エルシュはキョトンとした表情だった。

「誰つて決まつてるだろ。レイス、お前しか居ないじゃないか。」

「ああ、やつぱり……。エルシュは手伝つてくれないんですか？」

僕はそれ程期待はしていなかつたけど一応エルシュに聞いてみた。

「……働いたら負けな気がする。」

エルシュは遠くを見つめて呟いていた。

「いつも思うんですが、誰に負けるんですか？ - - はあ、まあ始めから期待してなかつたですけどね……。」

僕は溜め息混じりに諦めていた。

何かある度にこのセリフを呟いて殆ど僕に働かせるんだ。

「まあ、それは良いですけど。エルシュ大切な事を忘れてますよ。」

「ん？何だ？」

「武器ですよ武器。ここの魔物は魔法防御力はピカイチで殆ど魔法効かないですよ。」

「ああ、そうだったな。さて、どうするか…レース、お前武器扱えるよな?」

「ええ、一応。剣術と銃は一通り習いましたが、人並み程度ですよ。」

「充分だろう。それならまずは、武器の調達。その後大討伐の受付に行こうか。」

そう言うとエルシュは身支度を始めた。

はじまり(後書き)

次回はなるべく早めに投稿したいなあ
…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6757x/>

境界線の先

2011年10月26日11時21分発行